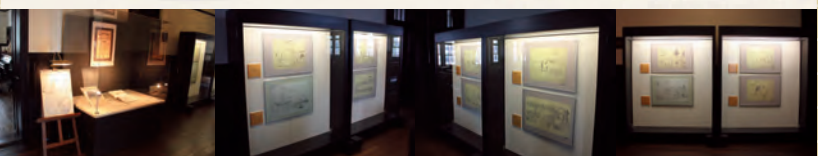


シーボルト著 「日本」にみる近世NIPPON ～年中行事～

◎会期／2011(平成23)年7月15日(金)～10月22日(土)

博物学者としても知られるシーボルトは、日本の文化や習慣、動植物に至るまで研究していました。そのシーボルトの“目”として、彼を支えていたのが川原慶賀という人物です。慶賀は、シーボルトの要求に応じて多くの絵を描き、これは「NIPPON」に載録されています。本企画展は、そのなかでも江戸時代の年中行事にスポットをあてたものです。正月や節分、ひな祭り、端午の節句など、今日でも馴染み深いものを取り上げました。12点のパネルから、江戸時代の年中行事を知り、今日との比較を通じて新しい発見をしてもらえれば幸いです。



今回の特別展

大学博物館共同企画シリーズI

アイコンー東西聖像画の世界ー

◎会期／2011(平成23)年11月2日(水)～12月10日(土)

キリスト教に関するものを描いた聖像画アイコン。本学博物館と玉川大学教育博物館が所蔵するギリシャやロシア、エチオピアなどのアイコンを展示し、キリスト教の伝道過程を知るとともに、アイコンに込められた想いを紹介するものです。なお、本展覧会は、大学博物館の共同企画シリーズの第一弾にあたります。

せいなんこども ワークショップ活動報告①

本年度第1回目のワークショップでは、船の科学館・海と船の博物館ネットワークの支援をうけ開催した開館5周年記念特別展「海流に魅せられた島天草ー祈りの継承とキリタン文化」に関連して、南蛮船のペーパークラフトを作りました。まず、担当の臨時職員による特別展ギャラリートークを行いました。説明を聞く小学生は、みんな真剣そのもので、中には積極的に質問する子もいたほです。特に、ワークショップのテーマである南蛮船模型は大好評でした。

ギャラリートークの後、別室に移動してのペーパークラフト作りです。移動の間は元気な子供たちもペーパークラフト制作中は、ギャラリートークと同様真剣で、黙々と作業にあたっていました。比較的難易度は高めでしたが、ボランティアの学生さんの助けもありみんな完成することができました。また、台紙は全て同じものでしたが、オリジナリティを出すため、思い思いの装飾品を施すなどの工夫もみられました。

最後に海に模したブルーシートの上で記念撮影をして終了しました。



せいなんこども ワークショップ活動報告②

8月27日に開催したワークショップ第2回目は、クイズを通して、展示品への興味や関心を引き出すこと、西南学院大学博物館をもっと知ってもらうことを目的として行いました。

十字架の図像をもつ展示品にまつわるクイズと館内マップがかかれたワークシートをたよりに、クイズにあげられている十字架の図像をもつ展示品を探しながら、学生ボランティアの先導でグループごとに博物館内を見学し、クイズを解いてもらいました。参加者は真剣な眼差しで見学しており、小さな十字架をとても熱心に探してくれました。

クイズを解き終えた後は2階講堂に集合して、博物館実習生による答え合わせと解説を行いました。画用紙を用い分かりやすく説明を加えながら、子供達の対話形式で答え合わせをしました。みな、自分が選んだ答えの理由を一生懸命に答えてくれました。ただクイズに答えるのではなく、一生懸命に展示を見て考え、答えを出していたのでした。

最後に全員でステージに並び記念撮影をし、ドージャー探検隊のメダルとして記念の子供達の名前入りの缶バッジを進呈しました。



行事予定

2011(平成23)年

【企画展／特別展】

7月15日(金)～10月22日(土)
シーボルト著「日本」にみる近世NIPPON ～年中行事～
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下、2階講堂

9月2日(金)～10月13日(木)
西南大事“展”
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

11月2日(水)～12月10日(土)
アイコンー東西聖像画の世界
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月20日(火)～2012年5月15日(火)〔予定〕
古写真でみる西南学院
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

【講演会など】

11月5日(土)12:00～17:00
第10回特別展関連公開講演会
●「大学博物館の役割と西南学院大学のアイコン」
..... 安高啓明氏(本学博物館学芸員)
●「アイコンの美と魅力ー玉川大学のコレクションからー」
..... 柿崎博孝氏(玉川大学教育博物館准教授)
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

12月4日(日)13:00～〔予定〕
そよかぜ合唱団コンサート
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

【せいなんこどもワークショップ】

9月17日(土)10:00～12:00
せいなんミュージアムカードをつくらう
[場所] 西南コミュニティセンター

10月8日(土)10:00～12:00
みんなで仮装しよう! ミュージアムでハロウィンを
[場所] 西南コミュニティセンター

11月12日(土)10:00～12:00
ノアの方舟をつくらう
[場所] 西南コミュニティセンター

12月10日(土)10:00～12:00
松ぼっくりでクリスマスツリー
[場所] 西南コミュニティセンター

2012年3月3日(土)10:00～12:00
2000年前の生活体験ー勾玉(まがたま)をつくらうー
[場所] 西南コミュニティセンター

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料

来館者掲示板

横浜からまいりました。とても興味深くゆっくり拝見することができました。木造の建物もなつかしく歩かせていただきました。(2011/06/09 男性 40代)

天草の漁師さんたちの文化に興味があってきました。海の文化とキリスト教がむすびつく姿を想像しました。ありがとうございました。(2011/06/13 女性 20代)

小倉におけるキリシタンの足跡を調べています。今回初めて、当博物館の特別展を見学し、とくにアルメイダに関する資料をさらに知りたいと思いました。(2011/07/01 男性 50代)

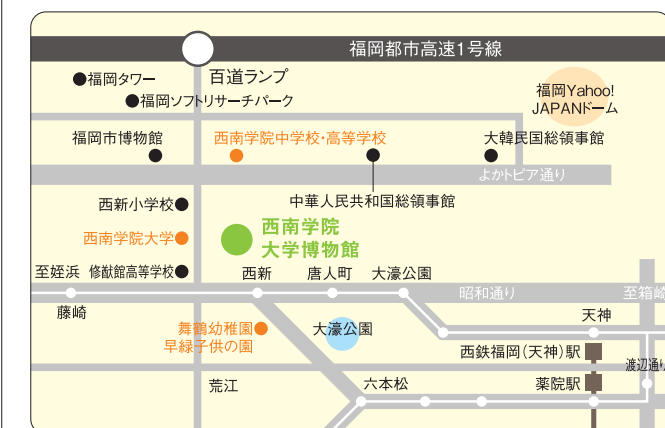
島原の乱のことや南蛮文化について中学のころから興味がありました。陣中旗や信仰の対象となっていた文化を実際に目にすることができてよかったです。講堂のパイプオルガンの演奏を聴いてみたいです。(2011/07/02 女性 10代)

本州の人間ですが、この展示会を見て、キリスト教と天草がとても密着したものであることを改めて実感しました。来てよかったです! (2011/07/11 男性 40代)

今回は、開館5周年記念特別展「海流に魅せられた島 天草ー祈りの原点とキリシタン文化」に関するメッセージを多くお寄せいただきました。ご来館とあわせて、感謝いたします。展覧会を通してみなさまの知的好奇心をより刺激できるよう、今後もスタッフ一同努めてまいります。(博物館スタッフF・Kより)



アクセスマップ ACCESS MAP



- 地下鉄 福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
天神 → 西新駅下車 → 約8分
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- バス 博多駅バスセンター → 修葺館前 → 約35分
天神 → 修葺館前 → 約20分
※修葺館前バス停から徒歩5分
- タクシー 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 08 2011.9

西南学院大学



聖パスカリス祈禱画
[西南学院大学博物館所蔵]

奇蹟とその先に...

特集 聖パスカリス祈禱画

博物館紹介◎ ヴォーリズ設計図面と学院史資料コーナー

企画展紹介 シーボルト著「日本」にみる近世NIPPON～年中行事～

所蔵品紹介 聖パスカリス祈禱画

大学周辺情報◎ 石灯籠

SEINAN GAKUIN
1920

ヴォーリズ設計図面と学院史資料コーナー

博物館の3階には、本学博物館を設計したヴォーリズの図面を展示しています。増改築を繰り返していたこの建物を、建築当時の姿に復元するために、これらの資料を参考にしました。展示している立面図や平面図などから、ヴォーリズ建築の繊細さも伝わってきます。また、ギャラリー入り口には西南学院の

歴史や沿革などを写真や年表で紹介しています。西南学院は間もなく創立100周年を迎えます。1921年に西南学院本館として建築された現在の博物館は、西南学院とともに生きています。このコーナーを通じて、ヴォーリズ建築の醍醐味と本学が歩んできた歴史を再認識いただければと思います。



学院史資料コーナー



ヴォーリズ設計図面



ヴォーリズ年譜

学術研究所エントランスの小庭園にひっそりと石灯籠が建っているのをご存知ですか。この石灯籠は、1937年に旧西南会館の玄関に建てられました。旧西南会館は学院の学生・生徒や教職員の集会所として、現在のクロスプラザの位置に建てられていましたが、1971年11月に現在の「大学西南会館」が新しく建てられ、老朽化が進んでいた旧西南会館は1975年に取り壊されました。解体に伴い、石灯籠は本館前ロータリーに移設されましたが、1992年に本館前の整備が行われた際に、現在の学術研究所の玄関の横に移され、現在に至ります。また、その隣には、昭和50年3月に西南学院大学短期大学部児童教育科卒業を記念して建てられた石碑もあります。1937年に建てられてから74年間、西南学院を見守ってきた石灯籠を、ぜひ探してみてください。

臨時職員 大学院国際文化研究科博士前期課程研究生 中松沙織



石灯籠



記念碑

【大学周辺情報⑧】

キャンパス内にたずむ石灯籠

スタッフの声

例年同様、今年も博物館実習を実施しました。当館においては三回目の実習になります。今回は5名の学生に参加していただき、私は実習補助として実習にたずさわりました。期間は2週間だったのですが、博物館職員として貴重な経験をさせていただいたと思っています。

実習を振り返ってみて、まず頭にうかぶのは実習生とのやりとりです。我々がなんとなく見ている展示物を異なる視点からみる実習生の目に感じたり、普段の勤務のなかでは考えたこともないような質問に困惑しながらも、そのやりとりからは非常に得ることが多く、私自身が勉強させられた2週間でした。

もちろん、学芸員の基礎から企画展の起案・開催までを勉強した2週間は実習生にとっても実りあるものだったと思います。今回の実習生全員が学芸員になるわけではないと思いますが、西南学院大学博物館で学んだことが今後、何らかのかたちで役にたつことがあれば実習担当者として幸いです。

臨時職員
大学院国際文化研究科博士後期課程
中尾祐太

所蔵品紹介

聖パスカリス祈禱画

1927年

奇蹟とその先に…



聖体顕示台



祈禱する男女



聖パスカリス

パスカリス(1540-1592)は聖霊降臨祭の日曜日にスペインの小村で生まれました。両親は貧しいながらも信仰に篤く、パスカリスも日々の祈りを欠かさない日々を過ごしていました。そんななか多くの奇蹟を体験し、やがてフランシスコ会に入会します。

聖体顕示台の前で長時間過ごす日を送り、のちに聖餐式の聖人とみなされました。貧者のためにひとかけらのパン

を増やして全員を満たしたり、病人を治療したりして奇蹟を起こします。こうしたことから、彼は料理と台所の守護聖人ともいわれます。

カリックでは彼を模範的な存在として認め、1690年には聖人に列聖します。パスカリスは台所竈の上にエプロン姿で描かれ、聖人を表現するニンプスもみられます。その日々の信仰の姿を示すようにその正面には聖体顕示台も描かれています。聖パスカリスを祈禱する男女二人の敬虔な様子をよくとらえています。

学芸員の眼 — 実習カリキュラム —

本学博物館では8月に博物館実習をおこなっています。今年は法学部・商学部、国際文化学部の学生5名を受け入れました。本学博物館では3年目となる実習も、1年目からのカリキュラムをもとに、前年度の問題点を改善した内容に組み替えています。より実践能力をもった学芸員を

養成するために、できるだけ実物資料に触れさせるとともに、ほかの博物館を見学させてもらい、多角的な視野をもつように指導しています。将来への文化継承を担う“博物館人”をひとりでも多く輩出できればと思います。

博物館学芸員 安高啓明



掛軸の取り扱い



絵画の梱包



展示と照度

※このページは文章、レイアウト含めて実習生が実習成果として作成しました。

収蔵庫で眠っていたら、いつの間にやら美女に見つめられていた!!

1日目 目録作成



ずっと残るものだからちゃんと書かないと!!

現状を詳細に記録するため調査をとられる。熱烈な視線で見つめられ、前から後ろから…上からも写真を撮られた。

2日目 調書作成 & カメラ撮影実習

この頭の穴も記録されてしまった……



私たちのような大切な資料を守るため、皆丁寧に梱包しているようだ。

3日目 資料梱包実習 & 資料展示実践



日通長崎支店さん! ありがとうございます!!

今日は展示室でお留守番。皆は今頃何をしているのだろうか…?

4日目・5日目 企画書&展示レイアウト作成・発表

それぞれの興味関心に沿って企画展を考えました。
内田成美…いのりのかたち—たしかに—そこにいた—
大丸葉子…朝日
千原瑠子…スペインの至宝と呼ばれた男
森友紀…かえるの歴史展
吉松由希…展んほえ



※これは博物館実習前期の内容を、Zabiel氏のつぶやきと共に追ったものです。

